



お茶 × 挑戦

農業 × 楽しい

失敗を恐れずに、新たな可能性に活路を見出す

# お茶を通じた地域コミュニティ。

紅茶ようかんや狭山茶コーラ、そしてワゴン車で抹茶ラテを販売するなど  
様々な挑戦を続ける田畑園の想いとは――。



①店舗脇の休憩スペースで取材に応じた裕孝さん。お茶作りを「楽しい」と言い笑顔を見せます。②おしゃれな看板がTABATAEN CAFEの目印。③出来上がったラテと同時に販売しているワッフルを手にする淳子さん。



田畑園の皆さん。今年3月から開始したワゴン車を使用した「TABATAEN CAFE」の前で。お茶の色のボディが印象的です。  
※ワゴン車の販売は不定期です。

【DATE】 田畑園：上富 2265 ☎ 049-258-1710

「この緑色のワゴン車と地域コミュニティ」

「私は青森県出身で昭和52年に婿として田畑園に入り、お茶作りに携わるようになりました。お茶のことを全く知らなかったからこそ、客観的に見ることでできますし、当たり前を打破して、他と違うことをしたいと常に思っています」と語る忠良さん。

裕孝さんは「三芳町の四軒茶屋は若手が頑張っています」と胸を張ります。「全国的にみてもこれだけ若手農家が率先して頑張っているのは珍しいと思います。三芳町茶業研究会のみならず探究心を持ってお茶作りを研究し合えるのは、小さな三芳町のよいところですね」。

でも目を引くと思います。TABATAEN CAFEのワゴン車をきっかけに地域のコミュニティの場になってくれれば、車なので移動ができます。多くのイベントに参加し、お茶と三芳町のPRに一役買いたいと思っています」と淳子さんが作ったラテを口にし笑

顔を見せる裕孝さん。お茶とコーラのコラボ商品やお茶屋なのにコーヒーだけのラテを提供したり、固定概念にとらわれず柔軟な発想を心がけている田畑園。親子で飽くなき挑戦を続ける田畑園に一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



【写真上】田畑園で作られているお茶。一言でお茶といっても多種多様な品種があり、味も香りも異なる。【写真下】ワゴン車を囲むお客さんたち。早くも地域のコミュニティの場になっています。

## 既成概念にとらわれず挑戦

先人が生み出した従来の製法を守りつつも、時代の変化に合わせていかなければならないと考え、加工品にも力を入れています。紅茶アイスやほうじ茶アイス、お茶を練りこんだうどんなどの加工品を作り付加価値をつける取り組みを行い、新しい顧客獲得に繋げつつ、狭山茶を多くの人に知ってもらえるようにしています。既成概念にとらわれず、新しい挑戦を続けていくことが、美味しいお茶作りや食品に繋がっていくと考え今後もどんどん挑戦を続けていきたいです。

田畑園 代表取締役  
田畑 忠良さん(62)

## 失敗を恐れず挑戦を

このワゴン車でラテを販売するアイデアは淳子さんが発案。「失敗を恐れずに新しいことはどんどん挑戦する」ことが田畑園の真骨頂。当代の忠良さんは意欲的に新しい商品開発を行っています。

芳P Aから車を走らせてすぐ。おしゃれな緑色のワゴン車とTABATAEN CAFEの看板が目飛び込んできました。「こんにちは」と笑顔で迎える田畑裕孝さん(36)。ワゴンの中では奥さんの淳子さんが販売する抹茶ラテの準備をしていました。「私も家族も探究心が強く、新しいことに挑戦することが好きなんです」と言う裕孝さん。田畑園の11代目を務めています。



TABATAEN CAFE プレオープンの時のお客さん。「ラテが飲みやすく美味い！」